

論文賞

第18回日本色彩学会論文賞を受賞して - 多くの方との出会いに支えられた研究 -

In Recognition of Receiving the 18th CSAJ Paper Award
- Research Supported by Many Encounters -

大古場 稔
Minoru Ohkoba

宇都宮大学 工学研究科 システム創成工学専攻
Department of Systems Innovation Engineering,
Graduate School of Engineering, Utsunomiya University



この度、私共の論文 "Color representations of normals and congenital red-green color deficiencies based on differential scaling of color-names and color-naming experiments" が、論文賞という栄誉ある賞を頂き大変光栄に思っております。評価していただきました審査委員の皆様、深く御礼申し上げます。また、論文作成にあたって、被験者として参加していただきました、NPO 法人カラーユニバーサルデザイン機構の皆様、学生の方々へ、心よりお礼申し上げます。また、共著者の宇都宮大学 阿山みよし名誉教授、石川智治教授、金成宏太様、国際高等専門学校 大塚作一教授、鹿児島大学 比良祥子様には、研究のご指導、この場を借りてお礼申し上げます。

今回受賞の論文は2018-2023年に私が取り組んだ研究を纏めた2本の論文のうち、後半の論文になります。1本目では、個人ごとの「視覚的色空間」を明らかにしました (Ohkoba et al., CRA, 47(3), 2021)。続く2本目では、色票に対するネーミング実験と、色名の組み合わせに対する心理的相違度実験を通して、「ネーミング色空間」の構造を導出いたしました。更に、「視覚的色空間」と「ネーミング色空間」の比較により、色弱の方においては中彩度領域で両空間の対応が乏しい傾向が見受けられたものの、いくつかの特徴的な差異があることが確認されました。具体的には、色弱の方が視覚的判断の際に明度差を戦略的に用いている特徴や、「青」「緑」「紫」「灰色」等の色名が持つ心理的距離を活用しているという特徴が示唆され、個々人が経験や言語知識を共に、独自のカラーネーミング体系を構築していることが浮びあがったという内容になります。

ここで私がこの研究に至った経緯を簡単に述べさせていただきます。私は元々メーカー所属のエンジニアとして、幾つかの表示デバイスの開発に携わってきました。開発の傍ら、多くの色彩研究者の方と同様、「なぜ人は綺麗な色に心を奪われるのか」「この色は隣の人にも同じ様に見え、同じように感じられているのだろうか」という、色に対する心の動きについて強い

関心を持っておりました。その間いを確かめたい思いから、宇都宮大学 阿山・石川研究室に研究志願のメールを差し上げました。ご縁をいただき、大塚教授（当時、鹿児島大学）と共同で進められていた色覚の多様性に関する研究に携わる機会を得て、企業に勤める傍ら研究を始めました。

研究期間中は、新型コロナ感染拡大と重なり、主観評価を主とする我々の実験もその影響を受けました。対面実験が制限される中、被験者の皆様には研究の意義をご理解いただき、ご協力いただくことで、貴重なデータを収集することができました。データの解析においては、阿山教授、石川教授と夕刻から Zoom で打ち合わせを行い、各拠点からの参加により移動時間を節約し、深夜まで熱のこもった議論を幾度も重ねさせていただきました。また、大塚教授からも、愛情ある激励をたびたび賜り、多くの議論と考察を経て、今回の論文として結実させることができました。このように多くの方々のご協力のもと、志を高く保ち、実験結果に真摯に向き合い、多くの仮説検証をおこなうことで論文に仕上げることができました。そして、更に、これらの1つ1つのかけがえのないご協力が、今回の受賞へと、繋がったのだと思っております。

今回の研究を纏めるにあたり、これまで我々の過去の検討や研究が、点から線へとつながり、パズルのピースが収まるような不思議な感覚を感じられたことが、貴重な体験として思い出されます。そして今回、賞を頂いたことで、これまでの技術者、研究者としての我々の歩みが間違いではなかったのだと意味付けしていただけるような、報われたと思える幸せに包まれております。

今回の賞を受け、更に、色彩と向き合い続ける諸先輩方や研究者の皆様と語らう機会を頂けたことは、何よりの喜びであります。今後も探究心を持って研究を重ね、少しでも皆様のお役に立てるよう研鑽を続けてまいりたいと思います。

改めまして、この度は誠にありがとうございました。